

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 57-175474

(43)Date of publication of application : 28.10.1982

(51)Int.Cl.

B62D 25/14

B62D 25/08

(21)Application number : 56-060331

(71)Applicant : NISSAN MOTOR CO LTD

(22)Date of filing : 21.04.1981

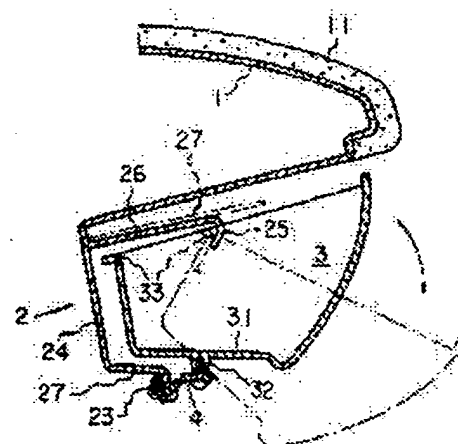
(72)Inventor : TSUNODA KATSUYA

## (54) GLOVE BOX

## (57)Abstract:

PURPOSE: To reduce the number of assembly processes and the weight by locking a glove box by means of a stopper hook.

CONSTITUTION: A safety pad 11 is spread on the upper and front faces of an instrument panel 1 and a fitting recess 2 for a glove box 3 is formed from the central part of the front face to the lower part. The glove box 3 is supported swingably around a nearly horizontal shaft. A stopper hook 26 which has a downward hook 26 at the end is projected from the upper part of an utmost wall 24 of the fitting recess 2 up to a point above the glove box 3. The hook 25 is placed at a position where when the glove box 3 is opened, its upper recess end 33 is caught by the hook to lock.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57-175474

⑪ Int. Cl.<sup>3</sup>

B 62 D 25/14

25/08

識別記号

庁内整理番号

8108-3D

8108-3D

⑬ 公開 昭和57年(1982)10月28日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ グローブボックス

横浜市鶴見区大黒町 6 番地の 1

日産自動車株式会社鶴見地区内

⑯ 特 願 昭56-60331

⑰ 出 願 人 日産自動車株式会社

⑱ 出 願 昭56(1981) 4 月21日

横浜市神奈川区宝町 2 番地

⑲ 発 明 者 角田克也

⑳ 代 理 人 弁理士 笹井浩毅

明 細 書

1. 発明の名称

グローブボックス

2. 特許請求の範囲

取付陥入部に略水平軸のまわりに揺動可能に底部が支持されたグローブボックスにおいて、該取付陥入部の奥板より該グローブボックスの上方に突出し、先端に、開時の該グローブボックスの上奥端を係止するフックを備えたストップフックを設けたことを特徴とするグローブボックス。

3. 発明の詳細な説明

本発明は取付陥入部に略水平軸のまわりに揺動可能に底部が支持されたグローブボックスに関する。

樹脂製のインストルメントパネルの取付陥入部に上記グローブボックスを取り付ける場合、グローブボックスの開き角度を拘束するストップを設ける必要がある。

従来は第 1 図および第 2 図に示すように、上面

および前面にセーフティパッド 00 が装着されたインストルメントパネル(1)に取付陥入部(2)が形成されており、取付陥入部(2)にグローブボックス(3)が嵌合され、底部 01 のエンボス 02 にヒンジ(4)が固結され、水平軸として作用するヒンジ(4)を介して取付陥入部(2)の底板 03 に略水平軸のまわりに揺動可能に支持されたものにおいて、グローブボックス(3)の側板 04 に外方に向かいストッパビン(5)が突設され、側板 04 に対向する取付陥入部(2)の側面 05 が切り欠かれてストッパ切欠 06 が形成され、ストッパビン(5)はストッパ切欠 06 内に挿入されており、グローブボックス(3)のロック(図示しない)を解除して開くと、ストッパビン(5)がストッパ切欠 06 の先端に引掛って係止され、第 1 図想像線で示す如き開度に関し角度が拘束されるものであった。

しかし、上記従来例では、インストルメントパネルの剛性に重要な役割を果たす縦壁が大きく切り欠かれる構造となっていたため、剛性が不足し、剛性向上のために板厚を厚くすれば重量増を招き、補強板を取り付けたり、ストッパ切欠をインスト

ルメントパネルに直接形成せず別部品で形成したものは組付工数が増大し、重量増も招くという問題点があった。

本発明は、上記従来の問題点に着目してなされたもので、ストッパピンとストッパ切欠による構造に代りストッパフックによりグローブボックスを係止するようにして上記問題点を解決したグローブボックスを提供するものである。

以下、図示実施例に基づき本発明を説明する。  
なお、従来例と同一部位には同一符号を付する。

第3図および第4図に示すように、インストルメントパネル(1)の上面および前面にはセーフティパッド(2)が装着されており、前面の中央部から下部にグローブボックス(3)の取付陥入部(2)が形成されている。グローブボックス(3)の底部(3)のエンボス(4)と対応する取付陥入部のフランジ(4)とにヒンジ(4)が固結されてグローブボックス(3)は略水平軸のまわりに揺動可能に支持される。取付陥入部(2)の奥板(4)の上部よりグローブボックス(3)の上方に突出し、先端に下向きのフック(4)を有するストッ

パフック(4)が突設されている。フック(4)は、グローブボックス(3)を開いたとき、その上奥端(4)を引掛けて係止する位置に設ける。

すなわち、グローブボックス(3)のロック(図示しない)を解除すると、ヒンジ(4)により略水平に第3図において時計方向に揺動し、所定の開き角度でフック(4)とグローブボックス(3)の上奥端(4)とが係合して停止しその開き角度に拘束される。

なお、ストッパフック(4)の幅を広くするか横並びに複数設け、その上面に棚板(4)を僅けば、グローブボックス上部に棚を設定することができる。棚板(4)は脱着可能にしても良い。

本発明に係るグローブボックスによれば、その開時のストッパとして小寸のフックを利用するようになったから、縦壁は切り欠かれずインストルメントパネルの剛性が低下することはない。また、インストルメントパネルにストッパフックを設けるだけで良いからグローブボックスは余分な加工あるいは組付が不要となる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図および第2図は従来例を示し、第1図は横断面図、第2図は一部を破断して示した斜視図である。第3図および第4図は本発明の一実施例を示し、第3図は横断面図、第4図は一部を破断して示した斜視図である。

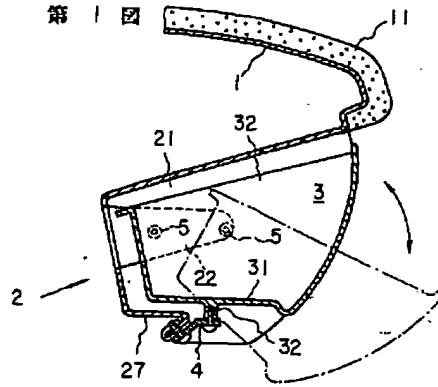
- (1)…インストルメントパネル  
(2)…取付陥入部 (4)…ストッパフック  
(3)…グローブボックス (4)…ヒンジ

以 上

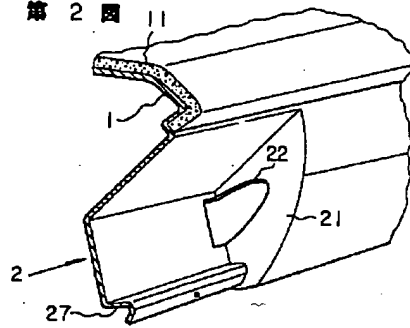
代理人弁理士 笹井 浩 監 印



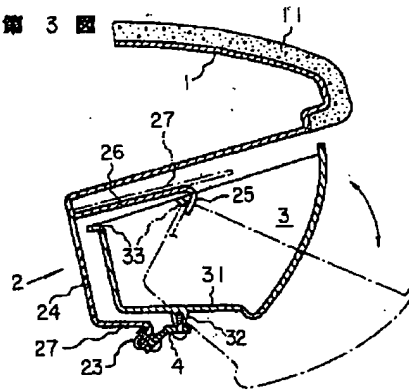
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

